

第 58 回全附連高等学校部会教育研究大会報告

研究部 阿 部 真由美

2016 年度の全附連高等学校部会研究大会は、「国語」、「数学」、「生活指導」、「附属のあり方」の 4 分科会が設けられ、10 月 21 日（金）、22 日（土）の両日、下記の日程で、大阪教育大学附属高等学校平野校舎において開催された。本校からは 4 名の教員が参加した。

<日 程>

第 1 日 <10月21日(金)>

9:00	9:30	10:00	12:30	13:30	16:30	17:00
受 付	全体会	分科会 1	昼 食	分科会 2	準備会	

第 2 日 <10月22日(土)>

9:00	10:30	10:45	12:15	12:45
分科会 3	休憩	講演会	高校部会総会	

※ 講演会の内容は次のとおりである。

テーマ：「ボルネオ緑の回廊プロジェクト」

講演者：中西 宣夫 氏（特定非営利活動法人 ボルネオ保全トラストジャパン 理事）

本校からは下記の 1 名が報告を行った。概要については、次ページからの報告を参照されたい。

□ 「国語分科会」

漢文教育のあり方について

～漢詩の授業実践報告を中心に～

今 成 智 美

漢文教育のあり方について

— 漢詩の授業実践報告を中心に —

国語科 今 成 智 美

1. はじめに

漢文は古くから日本人が受け継いできた自国文化の基礎とも言うべきものであり、漢文教育はグローバル人材育成が進む中で今後一層研究が必要となる領域である。今回はそのような問題意識を基に、漢文教育のあり方について漢詩の授業の実践報告を中心に一考察を試みた。

2. 発表概要

本校国語科では学年ごとのテーマに沿って、古典（古文・漢文）を「時系列」に学習する授業を展開している。本発表では1年次国語総合（漢文）において、漢詩の入門教材として、中国最古の詩集である『詩経』を扱い、その後唐詩にかけて漢詩を時系列に学習していく授業の実践報告および考察を行った。

(1) 漢詩教材の現在 — 「国語総合」教科書における漢詩の掲載状況—

(2) 本校の漢文指導の年間計画紹介および単元「漢詩の学習」の概要

(3) 漢詩入門教材としての『詩経』「桃夭」の実際

- ① 『詩経』および「桃夭」について
- ② 本時の授業展開
- ③ 授業の実際
- ④ 授業実践の成果

(4) お茶の水女子大学教授による授業（「中国古典詩と『音』」）の概要

(5) 考察とまとめ—漢詩を古代から学ぶ意義—

3. 質疑応答

質疑応答では「漢文を訓読する際に「音」をどのように読み取らせるのか」、「時代によるものの見方や解釈の違いについてどのように指導しているのか」、「漢詩における作者の扱いについてはどのように考えているか」等のご意見をいただいた。その点については、訓読漢文であっても、リズムや押韻を通じて音の存在を認識することはできると考える。また、漢詩に関しては時代背景や作者の理解無しに論じることは難しいため、適切に知識を補いながら鑑賞することが必要である旨付け加えた。

4. おわりに

本研究大会国語科分科会では前回大会と比べ、定番教材の考察にとどまらず多岐にわたるテーマが扱われていた。アクティブラーニング考やSNSを活用した教育メソッドの開発、IBにおける単元設計など、国語科においても社会の変化に応じた新たな教育方法の開発が求められていることを強く感じるものであった。